

2024（令和6）年度 事業計画書

学校法人 鉄蕉館

亀田医療大学

亀田医療技術専門学校

目 次 (Contents)

学校法人鉄蕉館の使命	1
建学の精神・理念に基づく人材像	1
I 学校法人鉄蕉館の重点戦略	
1. ガバナンスとコンプライアンスの徹底	1
2. ニューノーマル時代の新しいキャンパス創出	1
3. 社会連携、社会貢献の積極的な推進	2
4. 亀田グループとの共創	2
5. 収容定員の検討ならびに今後の展開	2
II 亀田医療大学の重点戦略	
1. 使命・目的等	2
2. 学生	
(1) 入学者選抜試験の公正かつ適切な実施	3
(2) 学生募集活動の充実	3
(3) 修学、生活等を総合的に支援する施策の実施	3
(4) 充実したキャリア支援の実施	4
(5) 国際化および高大連携・接続の強化	4
3. 教育課程	
(1) 授業科目の適切な開設と教育課程の体系的な編成及び教育方法等の改善・充実	4
(2) 学修成果の評価・可視化	5
4. 教員・職員	
(1) 教員の資質、研究力の強化	5
(2) 教員及び研究者における研究倫理の遵守、研究活動不正防止の徹底	6
(3) 職員の資質、能力向上への取組み	6
5. 内部質保証	6
III 亀田医療技術専門学校の重点戦略	
1. 使命・目的等	6
2. 学生	
(1) 学生の受け入れ	7
(2) 学修支援	7
(3) 学修環境の整備	7
3. 介護福祉学科、日本語学科移管	7
4. 教員・職員	
(1) 教育力向上に向けての教育環境の整備	7
(2) 職員の資質、能力の向上	7
5. 内部質保証	8
6. 地域貢献	8
IV 学校法人鉄蕉館・財務分野の重点戦略	
1. 基幹的収入	8
2. 支出の適正化	9
3. 主要財務指標等について	9

2024（令和6）年度 事業計画書

学校法人鉄蕉館における2024（令和6）年度事業計画は、本法人が定めた中期計画を確実に達成するために以下の計画を策定し実行する。

【学校法人鉄蕉館の使命】

我々は、愛の心をもって、学修者が能力を最大限に発揮できるよう支援し、自らの幸せと社会に貢献できる人間を育成することを使命とする。

【建学の精神・理念に基づく人材像】

本学は、「HEART」に集約された特性をもつ教養豊かな医療人を輩出する。

H：Humanity（人間への愛と尊厳）

E：Empowerment（動機付け、個人に内在する力の向上）

A：Autonomy（自律性と専門性）

R：Reason（理性）

T：Team（チーム医療）

I 学校法人鉄蕉館の重点戦略

1. ガバナンスとコンプライアンスの徹底

常に学修者本位の教育を心掛け、公共性と公益性かつ透明性が高い教育機関としてコンプライアンス遵守の取組み、ガバナンス強化を図る。本法人においては令和7年度より施行される、私立学校法改正に基づく寄附行為変更等を円滑にかつ適切に行えるよう十分な検討と準備を滞りなく行っていく。

2. ニューノーマル時代の新しいキャンパス創出

新型コロナウイルス感染症も2類相当から5類となり、世の中の活動制限は緩和されつつある中、パンデミック下で培ったオンライン授業、ウェブ会議、テレワーク等の手法も運営に活用していく。またICTインフラを充実させ、次世代に向けたDXを推進するとともに、サイバー攻撃などに対する危機管理もより堅固にしていく。下記5.とも関連するが国内の少子化、18歳人口の減少は地方において加速され、これからも学生確保においては大学、専門学校ともに困難が続くことが予測される。法人内の組織運営面におけるより一層の協力体制が必要であり、特に大学、専門学校の事務組織の統一性・連携を促進・向上するべく再編成を行っていく。教育面では履修記録、成績物等を一元的に保存・管理・運用できるようにし、またIR活動をより強化し多角的・横断的な対応を行うべく環境を整えていく。

3. 社会連携、社会貢献の積極的な推進

- ① 鴨川市と地域医療連携室との会議は、本年も月に1度実施される予定である。大学として地域住民に対する「公開講座」は、大学の教員が自分の研究等をテーマに講演し、地域住民の「健康管理」に貢献することを目標とする。
- ② 本学の地域連携・生涯学習センターの活動の役割は大きい。中でも認知症予防の「はななかふえ」は、地域住民の健康管理・予防を含めた指導、レクレーションなど、地域住民からの要望も強く、地域との交流が年々深くなっている。今年度も活動内容を検討し地域に貢献できるよう努める。

4. 亀田グループとの共創

亀田グループの一員として亀田メディカルセンターを始めとする各施設と一体となり学生教育・卒後教育・研究活動を行っていく。病院看護部の協力の下、修士課程大学院への社会人大学院としての入学を促していく。また大学の総合研究所による看護研究支援を軌道に乗せ、昨年度看護部に設立された臨床看護教育研究センターと共に研究面での連携をより強化していく。さらに臨床指導者教育に大学教員が参画することで、より質の高い実習教育を目指して行く。

5. 収容定員の検討ならびに今後の展開

少子化による国内、特に地方において著しい18歳人口の減少と県内特に県北における看護大学・看護学部・看護学科の乱立の中で、不利な地理的条件にある本法人が入学定員を維持していくことは極めて困難な命題である。特に最近の数年間にはコロナ禍の影響もあり他県からの志願者数も減少している。令和5年度入試では周年事業により一時的に入学定員の回復を見たが、令和6年度入試では再び受験者数は減少し、大学・専門学校ともに大幅な入学定員割れは必至である。高等教育無償化への風潮の中、私学と雖も入学金を含めて学納金減額を令和7年度入試に向けて早急に検討する必要がある。また学生募集・広報活動をより強力に行う必要がある。大学看護学部(80)・専門学校看護学科(80)の定員数について病院側との協議を行い、近未来の地域医療も考慮し具体的に検討を行う。

II 亀田医療大学の重点戦略

1. 使命・目的等

幕末以降、亀田一族が連綿と行ってきた地域医療、看護教育活動の歴史を受け継ぎ、本学は平成24年に創設され、今日に至っている。法人の目的、学則、定められた使命・目的に加えて、本学の基本理念“HEART”の精神に基づき、学部・大学院において常に学修者本位の教育を行っていく。さらに、令和3年度に策定したガバナンスコードに準拠した大学運営を行う。

2. 学生

(1) 入学者選抜試験の公正かつ適切な実施

本年度も引き続き、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもと運用していくとともに、その検証を行っていく。新型コロナウイルス感染症は、5類に移行したが、体調不良者には別室受験を準備するなど、適宜感染症対策を実施する。また能登半島地震にみられるような大規模災害発生時には、その地域の受験生に不利のないよう、適宜柔軟な対策を講じる。

(2) 学生募集活動の充実

昨年度は、大幅な定員割れを来した。少子化により学生確保には、非常な困難が伴うが、広報活動を充実させることで対策を強化する。具体的には、①オープンキャンパスの実施については、4回から6回に増やす。②高等学校訪問は、東北、北関東、千葉県南部、東京都、沖縄県を強化地域として、教員1人あたり4から5校を担当し、進路指導の教員と情報交換を円滑にするよう、できるだけ同じ教員が訪問するような体制をとる。③高等学校への出張講義:高校1～2年生を対象に、14～15校程度実施。④大学説明会の実施(オンラインおよび対面での相談の実施)⑤大学案内、募集要項の配布、および進学雑誌への掲載、⑥ホームページでの大学案内の更改、およびキャンパスの催しなどのSNS等での発信。

(3) 修学、生活等を総合的に支援する施策の実施

学生生活全般の支援として、以下について実施する。

- ① 前期・後期ガイダンスの改善に基づく各学年の進度に合わせた学生支援の強化
- ② チューター制の継続による学生支援の強化(チューターによる4年次の国家試験への支援体制の強化、学年主任制・副主任制の強化、学年間の情報共有)
- ③ 学生自治会への支援(部・サークル活動の活性化、大学祭等の年間イベント開催、等)
- ④ 学生生活満足度・実態調査の実施、その結果を受けての改善対策の実施
- ⑤ VOICE BOX 設置による学習環境・学生生活に関する意見(要望)の検討と改善
- ⑥ 保護者懇談会の対面での実施
- ⑦ 国の対策に準じた Covid-19 に対する学生生活の支援

修学支援としては、以下について実施する。

- ① ポートフォリオに基づく、学生主体の学習計画立案及び目標達成に向けた支援
- ② 基礎学力試験による学力把握および入学前教育による基礎学力向上支援
- ③ IR を活用した学力向上の評価分析
- ④ 学習支援委員会を中心に各学年チューター、学年主任、副主任との協働的学習支援の強化

(4) 充実したキャリア支援の実施

看護師・保健師国家試験の全員合格を目指し、学習支援委員会が立案する1年生から4年生までの看護師・保健師国家試験対策計画に基づき、学修支援を行う。併せて、成績が低迷する学生に対しては、学習支援委員会と学年主任・副主任、担当学生チューターが協働して、学力向上に向けた支援を行う。

卒業時には、すべての学生が希望に沿った進路に就けるよう、チューターを中心に教職員が協働して学生のキャリア支援を行う。学生自身でキャリア形成を考えるために引き続きポートフォリオを導入していく。令和6年度より学生が記載しやすくなるよう改訂した「キャリアデザイン・シート」や「目指す看護師像」を使用するため、その活用状況と評価を行いさらに効果的なキャリア支援への活用を目指す。

(5) 国際化および高大連携・接続の強化

引き続きコロナ対策を講じ、計画の変更・調整・検討をしながら以下の内容を強化・実践する。

- ① 中国山西医科大学との交流・留学生の受け入れ、国際看護研修の実現については、引き続き継続する。なお本年9月には1週間の日程で山西医科大学との交流を兼ねた学生の国際看護学研修を実施する。
- ② 昨年、交流協定締結を行ったドイツのフリートナー応用科学大学（Fliedner-Fachhochschule Düsseldorf University of Applied Sciences）において本年9月下旬から学生の国際看護学研修が開始される。研修計画には、学生の交流をはじめ学術交流を含めた本学の教員の講義等も計画されている。
- ③ シンガポール研修については、昨年の交渉が実り、新たにシンガポール国立大学病院 NUHS（National University Health System）及び、従来の研修施設である KTPH（Khoo Teck Paut Hospital）の2施設において、9月初旬から1週間の予定で、学生の研修を実施する。
- ④ 入学前教育として引き続き ICT を活用したオンラインの Kame ドリルとともに、高校の教員が確認しやすい紙ベースのテキストも新たに導入し、さらに高等学校との連携を強化して入学前教育を実施していく。

3. 教育課程

(1) 授業科目の適切な開設と教育課程の体系的な編成及び教育方法等の改善・充実

【看護学部】

令和2年度から新カリキュラムが開始となり保健師教育課程が増設された。並行する旧カリキュラムと同様、一層の学修充実向上を図り、優れた看護師・保健師を輩出していく。

- ① 教育目標達成に向け、学生の学修意欲を促進し、効果的な成果を収められるよう、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを本学ホームページ及びシラバス、学生便覧等で周知し、それに沿った教育を行う。
- ② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性の確保、またそれに即した学修成果を評価するために、教務カリキュラム委員会と学長戦略室 IR 部門が連携し、科目成績、GPA、進級率、退学率、国家試験合格率を比較検討し、分析する。
- ③ 時代や社会の要請に応じて適宜カリキュラム・ポリシーをはじめ、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーを見直していく。
- ④ 学生の理解に応じた的確な教育を行うための学内体制として、学生による授業評価、教員自らの教育評価を継続・強化し、授業方法の工夫やアクティブラーニング、ICT を活用した授業展開に関するファカルティ・ディベロップメントを一層充実させる。
- ⑤ キャリアデザインについて 1～4 年の科目に取り組み行う。
- ⑥ 現行の実習指導者会議や実習調整会議を継続し、学生の看護実践能力向上を目指して臨床と大学の連携強化、効果的な実習指導体制と実習環境の整備を図る。
- ⑦ 新入生に対する Web を用いたリメディアル教育を実施する。

【大学院看護学研究科】

- ① 本年度も定員を満たすよう、さらに広報活動を充実させる。具体的には、亀田総合病院での大学院教育の説明会の開催、web を通じた本学大学院の特徴の発信などを実施する。
- ② 令和 6 年 3 月に文部科学省へ申請した博士課程に対する文科省からの指摘事項に対応する。
- ③ 博士課程が認可された場合には、学生募集のための広報活動を速やかに実施するとともに、入学試験の準備を行う。
- ④ 学生による授業評価を受けて、大学院のアセスメント・ポリシーに基づき、本学の教育を見直し、自己点検自己評価を行う。

(2) 学修成果の評価・可視化

IR 部門を中心に、本学のアセスメント・ポリシーに基づきアセスメント項目のデータ収集と分析を行い学修成果を可視化していく。さらに、分析結果から教学関連、学修支援の課題を明確にし、関連する委員会や部門と協働し質の高い教育の実現に向け取り組んでいく。

4. 教員・職員

(1) 教員の資質、研究力の強化

全教員が研究テーマを持ち、研究活動を行い、論文作成に努力するようにする。科研費申請は基本的に教員のノルマと考え、各領域長に科研費申請の予定について報告する。また、科研費申請数をアップするために、総合研究所等と協力して、科研費に関するセミナー等を開催する。そのほか、教員の研究能力向上のために、研究交流会等のFD企画を実施し、研究の気運を盛り上げていく。さらに、亀田病院等臨床看護教育研究センターの研究助成等を活用し、病院看護部と共同研究を進めていく。

(2) 教員及び研究者における研究倫理の遵守、研究活動不正防止の徹底

研究倫理研修会等実施概要に基づき、APRINのe-learningプログラムによる研究倫理研修の有効期限内の受講を促し、受講履歴を管理する。

機関全体として研究倫理や研究不正防止に関する意識を高めるために、SD研修会を実施する。

(3) 職員の資質、能力向上への取組み

優れた医療人を育成するという本学理念の実現に向けた取組みを確実に進めるためには、教職員の意識改革と能力向上を図ることが必要不可欠である。本学では引き続き、FDの調査研究、企画、調整、実施を充実させ、大学の管理運営及び教育研究に関する資質向上のためのSDの取組みを実施していく。また、必要に応じ事務職員の研修・講習会に参加させ、個々の資質の向上に努める。

5. 内部質保証

引き続き、「大学運営・質保証推進会議」を基盤に、本学の理念・目的、教育目標および各種方針について、自己点検・評価を行い、その結果を踏まえた質向上に向けた取り組みを実施していく。

また、教育に焦点を当てた内部質保証システムとして学長戦略室に教学における内部質保証プロジェクトを設置している。IR部門と連携し、アセスメント・ポリシーに基づき、教育評価を行っていく。IRデータの分析結果、明らかになった課題について検討する。

本年度は特に、次年度の日本高等教育評価機構の受審に備え、大学全体の評価を実施していく。

III 亀田医療技術専門学校の重点戦略

1. 使命・目的等

教育理念のもと「看護師、助産師として必要な知識・技術・態度を習得し、保健医療福祉チームにおいて高いモラルを有する専門職として、社会の要請に応えながら人々の幸福に貢献できる人材の育成を目指す」ことを教育目的としている。この理念・目的等を活動全体に反映していく。また、定期的に評価を行い、検証を行っていく。

2. 学生

(1) 学生の受け入れ

- ① コロナ禍により中断している学校訪問を再開し、県外の学生も視野に入れて募集活動に取り組む。
- ② 亀田グループ内での協力を求め、本校の強み・魅力を強化・創造する。
- ③ 広報活動を評価し、対象のニーズにあった情報発信を検討する。
- ④ 助産学科は施設推薦の条件の再検討と広報を実施する。

(2) 学修支援

- ① 電子教科書導入やタブレット端末活用による教授方法を実践し、効果的な教授方法を開発する。
- ② 卒業生の就業状況に関するアンケート結果を評価し、基礎教育の改善を検討する。
- ③ 臨地実習における学びを保障できるような支援体制を検討する。
- ④ 現役生、既卒生を含め、国家試験の100%合格を目指し計画的に支援する。

(3) 学修環境の整備

- ① ICTの整備とリテラシー教育を並行して実施する。
- ② 学生の個別性に応じた学習支援の例を教員間で共有し、効果的な支援方法を検討する。
- ③ 定期的に図書運営委員会を開催し、学生ニーズに合った書籍等を配備する。
- ④ 学生・教員の意見を反映させて、通学および学校生活が充実するための施設活用を検討する。

3. 介護福祉学科、日本語学科移管

移管にて終了。

4. 教員・職員

(1) 教育力向上に向けての教育環境の整備

- ① 引き続き自己研鑽計画を立案し、亀田グループ内の研修や関連学会・研修会への参加を行っていく。
- ② 学び得た知識について教員間で共有する方法を検討する。

(2) 職員の資質、能力の向上

亀田グループ内での学習機会を共有し、教職員の知識・技術（得にICTに関して）の向上を目指す。

5. 内部質保証

- ① 引き続き計画に基づき自己点検・自己評価を実施し、評価結果より教職員間で問題を共有し、問題解決に向けて取り組む。また、自己点検・自己評価結果を社会へ公表していく。
- ② 学校関係者評価委員会を開催し検討内容等を社会へ公表していく。
- ③ 教育課程編成委員会を計画的に実施し、カリキュラムなどの教育課程について検討を行い、結果を基に改善を行う。また、委員会での検討内容を社会に公表していく。

6. 地域貢献

- ① 近隣の思春期教育、子育て支援活動は、引き続き学生が参加できる機会を確保する。乳児園でのボランティア活動等、情報を発信する。
- ② かめだっこ祭等のイベントを通し、地域住民との交流を図る場を設ける。

IV 学校法人鉄蕉館・財務分野の重点戦略

1. 基幹的収入

1.1 基本方針

学生生徒等納付金、各種補助金（経常費補助金・科研費等）を基幹的収入とし、寄付金収入は基幹的収入に次ぐ収入と位置付け、それぞれ、収支予算計上額の確保に努める。

1.2 学生生徒等納付金収入増のための目標・対策

- ① 大学看護学部・専門学校看護学科の在籍者数は、志願者及び入学者の確保、並びに、退学者の抑制等により収容現員が収容定員を充たすように努める。
- ② 学生生徒納付金は、新入生については定員を踏まえて入学者、在学生については現員を勘案して計上する。

1.3 経常費補助金獲得のための目標・対策

- ① 財務情報の公開の維持および充実を図る。
- ② 定員充足状況における減額を回避する。
- ③ 私立大学経常費補助金等を最大限獲得し、計上額（亀田医療大学）130 百万円の達成に努める。

1.4 寄付金獲得のための目標・対策

- ① ステークホルダーの理解を通じた寄付件数の大幅増（裾野拡大）に努める。
- ② 使途の情報公開等の推進を検討する。
- ③ 令和6年度目標額を300百万円とする。

2. 支出の適正化

2.1 基本方針

- ① 人件費（人件費率）の適正化を図り教育研究経費を確保する。
- ② 減価償却引当特定資産の活用及び施設整備補助事業（補助金）の確保等により施設設備の維持拡大に努める。
- ③ 施設設備長期修繕計画の詳細を検討し、施設設備の延命化及び修繕費の削減に努める。
- ④ 学生アパート等（保有・一括借上）の補助活動については、保有資産に係る減価償却費及び修繕費を含めた部門別収支均衡を目指し、採算改善を前提に借上物件数並びに貸与条件等の見直しを行う。

2.2 人件費・教育研究経費・管理経費の計画

- ① 教育の質を担保することを必須とし、人件費適正化を維持することとのバランスを図る。
- ② 教育研究経費、管理経費、施設整備費等について、質の維持を前提にその削減に努める。

2.3 大学独自奨学金の計画

令和4年度より従前スキーム（医療法人鉄蕉会奨学金貸与制度）に復している。既存貸与者に対しては引き続き与信管理（徴収不能引当金計上等）を行う。

また、既存貸与者が指定医療機関に勤務を開始したため、返還免除勤務期間に基づき債権管理を行う。

2.4 施設設備整備維持・更新の計画

- ① 減価償却対象資産の取得及び更新に際し、補助金、減価償却引当等特定資産の有効活用を図る。
- ② 施設設備の維持・延命及び計画的な取得・更新に努める。
- ③ 亀田医療大学 ICT 基盤システムについては、2022 年度に不正アクセスを受けたこと等により一層の情報セキュリティ対策を講じた上での学内情報システムを見直し、費用対効果等を総合的に勘案した上で行ったクラウド化などによる再構築を推進する。

3. 主要財務指標等について

3.1 基本方針

「教育活動収支差額」、「経常収支差額」、「基本金組入前当年度収支差額」の黒字確保に努める。

3.2 定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分

日本私立学校振興・共済事業団が示している「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」に基づく「経営状態」について、A3状態以上の維持を目指す。

3.3 ベンチマーク校の設定

看護系単科大学を有する学校法人をベンチマーク校として選定し、各種指標の比較実施を試行し、経営改善の資とする。